



臨嶺会会報

第28号
2007年春発行

目次

特集「あの先生は今!？」..... 2~8	カミングホームデー1号10~13
インタビュー	短11回生
寄稿	「お帰りなさい 松本へ」
アンケートに答えて...	事務局からのおしらせ 14
現在の先生方	卒業生の進路 15
最近の検査 9	松本便り 15
腫瘍マーカー	編集後記 16

特集 「あの先生は今!?!」

上村 英夫 先生にインタビュー

初秋の候、私は上村先生宅にインタビューに出かけた。先生は現在、お一人で暮らしているが、大変お元気な様子であった。

上村英夫先生の在任期間は、検査技師学校が開校されたS41からH1.9までの23年間。私の学生当時、先生には血液・血清学を教えていただいたが、実は開校当初、先生自身は全くゼロからのスタートであった。特に担当する教科もなかったため、他の先生方の講義を学生に混じって聴いていたそうだ。先生のご出身は諏訪（生まれは違うそうだが）で、本校に来る前は岡谷塩嶺病院に勤務されていた。そこでは検査の仕事は勿論だが、病理の仕事もされており、良い組織標本を作成するために大学の医学部や病院に出かけていき、吉田先生にも薄切や刃の研ぎ方（当時はディスポ刃ではないので）なども教えていただいたそうだ。そんな事が認められたのか、学校設立の際には丸山雄三先生から直々にお声がかかったそうだ。

私は先生がブラームス（作曲家）好きな事は知っていたが、現在先生は彼の伝記（原書）の翻訳に取り掛かろうとされていた。他には1000編近くある奥様の歌集を出版されたり、専門家向けにドイツ歌曲の対訳本を出版されたりとかなり忙しい毎日を過ごされている。実はローベルト・シューマンの歌曲「詩人の恋」より「Im Wunderschönen Monat Mai（美しき五月に）」は、私がオペラ合唱団のオーディション曲として選曲したものだが、先生の翻訳本が大変役に立った。

在籍中のエピソードを尋ねると、たくさんあるとのこと。しかし、中でも特に気にされていたのは、先生自身の信念に基づいて行ってきた事にみんながどう思っているのかということを感じ取れた。即ち信念とは、自分が納得のいかない事は自分が悔しいから、納得できるまでとことん追及すること。そのために学生には恨まれるようなこともすげすげと平気で言ってきた。だからそんな学生にはどういうふうに批判されてもかまわないが、わかって欲しいのは決して憎かったわけではなく、悔いの無い生活を送ってくれたら嬉しいというのが本音だったとおっしゃられた。

他のエピソードでは、医学部の学生よりも本校の学生の方がよく勉強しており、医学部生用のプリントを配ったりしてとても幸せな学校であったこと。医学部の先生はじめ理学部、教養部の先生までもが、楽しいからといってよく来てくれたくらい非常にレベルの高い学校だった。一方で、各種学校時代は授業料が無料だったためか、生活費すらままならないほど非常に貧しい学生が入学してきた時には困ったそうだ。その学生はアルバイトをして生活費を得るつもりでいたが、ご存知のとおりそんな時間などあるわけがなく、すごく勉強が必要だったし先生も勉強させた。だから先生も、いろいろ協力や相談にはのったが、結局その学生は辞めてしまったそうだが、その事が縁で辞めた後もしばらく付き合いがあったらしい。

ほかには、大概そうだが、各種学校から短大、4年制へと移行していくたびに、古い先生が辞められ、医学部から教授・助教授として招かれる場合が多い中、信大もこのような傾向がないわけではないが、各種学校、短大時代に育った人が母校の教授・助教授になっている。これは非常に珍しく、信大が極めて特色がある。即ち、通信教育等で学士を得、博士号を取得し、教授・助教授として活躍しているような、そんな学校はほかにはほとんどなく、いい意味で自慢すべきこと。ただし、学生に尊敬されるようであれば母校の卒業生にこだわる意味がないとも…。

2006年5月、軽井沢で行ったクラス会が縁で、同年8月12日、旧軽井沢にある堀辰雄文学記念館での緑陰講座の講師を頼まれた（写真）。堀辰雄のレコードというタイトルで話をしたとき、未だ健在である堀夫人（93歳）と挨拶し、講座の後に食事を兼ねて3、40分ほど雑談を交わしたことが、ここ最近大変嬉しかった事だそうだ。堀辰雄というのは、先生が今から50年も前に大変重い病に臥した折、病床にて読んだ本の著者で大変興味を持たれた方らしく、先生が独語、仏語を学ばれ、またブラームスを好きになるきっかけとなった方でもある。その奥さんと50年も経ってから話が出来た事、長生きをすれば面白いことがあるもんだと嬉しそうに話をされた。



石川 伸介 記

特集「あの先生は今!?!」

北澤 千和 先生にインタビュー

上村先生のインタビューの後、引き続き北澤先生宅へと足を運んだ。先生も大変お元気で、到着するや奥様と一緒に出迎えていただいた。

北澤千和先生の在任期間は、短大発足時のS49年から保健学科発足前のH10年3月で退官し、以後5年間は非常勤講師として教授された。担当教科は化学および化学実験・実習。

近況を尋ねると非常に多くのことをされていた。まず、信州大学文理学部同窓会会長をされている。また、松本音楽文化ホール「友の会」ハーモニーメイトの会長をなさっている。ハーモニーメイト発足時より会員として関与し、以後監事、副会長を経て現在会長となり通算して10年目となる。ハーモニーメイトの役割は、いち早く良い音楽情報を伝え、そして大勢の方に来館して頂き、気軽に音楽に親しんでもらえる環境づくりを目指しているそうだ。

村（先生は山形村民）の関係では、環境審議委員会の会長として村のゴミ減量化の会の代表となり、ゴミ減量化に向けて運動をしている。3年前に「ゴミ減量化を考える」というシンポジウムを開いたが、現実には村民が全面的に参画して貰うことは難しく、今年は村民の手で組織化していかなければならないのではと、いろいろ思案中だとの事。また教育委員会を4年間やってきて、その繋がりで公民館活動の一環として子供向けと大人向けにやっている事がある。子供向けには「子供チャレンジ教室」を開き、物作りをする試み、例えば折り紙、水鉄砲、紙鉄砲など昔ながらの遊びを教えたり、あと本来の先生の実験分野である化学（科学？）的な内容、例えばしゃぼん玉作り、フィルムケースを使ってロケットを作り、発泡性のある入浴剤やドライアイス等で圧をかけ飛ばすといったようなことを盛り込みながら楽しませたりしている。大人向けにはエコロジー教室と題して、ゴミ減量化もそうだが地球温暖化について地域的な問題や水の問題、汚水の問題などエコロジーそのものの問題を取り上げて、月1回話をしディスカッションをしている。先生は大学在職中は村に対してあまり関わって来られなかったのが、退職した現在は村に対して貢献しようと頑張っておられる。

いろいろやられていて大変ですかと尋ねると、「結構予定は詰まっています」と困惑した表情は見せたものの、とても生き生きと答えてくれた。

在職中の思い出の話を探ると、何枚か写真を取り出し1年生の時の合宿研修が良い思い出だと話してくれた。各地からやってくる学生とコミュニケーションを取る機会としてとても有意義で楽しい時であったそうだ。一方、悪い思い出についても話してくれた。それは自然科学系の教官が亡くなったことだと表情を曇らせた。当時の学生に対しても、留年させてしまった学生のことを気にされていた。先生は「今という時間は今しかない。常に前に進んで欲しい。今を無駄にしない。」とおっしゃられた。そんな気持ちからやむなく留年させる結果となったのであろう。また、大学生は学生であって生徒ではないのだと。生徒は教えた事をそのまま覚えればよいが、学生は物事を考えながら覚えていくものだ。実はこれは今の子供チャレンジ教室にも繋がっているそうだ。

最近嬉しかった事は？と聞くと、「教育委員長から解放されたことかな」と冗談っぽく笑って見せながら、実はすぐ5年生になる孫娘の成長がとても喜ばしいとのこと。紙コップや爪楊枝、ほか周りにある有り合わせの物で置き物などいろんなものを作っては見せに来てくれると言って、孫娘の1作品を見せて下さった。

石川 伸介 記



指揮者ウラディーミル・アシュケナージ氏とともに
平成13年11月11日（横浜みなとみらいホールにて）

今号は、かつての先生方が現在どのようにお過ごしでいらっしゃるのか、また現在の母校にはどのような先生方がおられるのか、会員の皆様のご要望もあり、特集いたしました。この特集にあたり上村先生と北澤先生には編集長がご自宅を訪れてインタビューを行い、また加藤先生は近況をお寄せくださいました。そのほかの先生方にはアンケートにお答え頂く形で当時の思い出などをお寄せいただきました。

近況報告

香川県立保健医療大学教授

加藤 亮二 先生

早いもので信州から高松に移り8年が過ぎました。夏は快適であった松本から蒸し暑い高松での生活に当初は戸惑いがありましたが、その分、冬が過ごし易く、今ではすっかり四国の街に慣れてきたようです。

さて、現在、私のいる大学では臨床検査技師20名、看護師50名、計70名の学生を育成していますが、平成11年に短大設立、16年には大学となり、教員数は臨床検査16名、看護は32名です。規模は小さな大学ですが、場所は高松のはずれにある牟礼町にあります。近くには香川大学医学部、徳島文理大学香川校も位置し、この辺では文教地区とも言われています。

ところで、信州大学における生活は平成3年3月から11年3月でしたが、とても長かった印象があります。その理由は良く分かりませんが、私自身にとって脱皮する期間であったのかも知れません。皆さんもご承知のように、この時期は、様々なことの変わり目でもあり、臨床検査教育に対する将来への不安感が漂っていたのかもしれない。さらに、個人的な研究、英国（Wales大学）への留学、日頃与えられた教育業務だけではなく、今で言う、ノルマが多く、『自分で考え何かを行なう』、『自分から進んで何かを変える』という前向きなことができなかったことでは？と思い出しています。今から考えますと、その当時に教育を受けた学生にとってはあまり喜ばしい時期ではなかったと反省しています。

新しい大学では時代・環境など、すべてが変わり、自分達が『新しい道しるべ』を造るため、進んでそこに身をおく事がこの分野への恩返しになるという新たな気持ちで湧出し始め、様々なことにチャレンジを開始しました。振り返れば信州時代がその礎になったかと思っています。

現在は、若手教員や大学院生の育成のため、新たな日本臨床検査学教育学会を設立し、昨年8月に第1回大会を東京医科歯科大学で開催しました。第2回は今年8月、高松で開催致します。ここでは、臨床検査教育に関わるすべての教員、臨床実習指導者および学生達が一同に集まり、この分野の進むべき方向を定め、今後の臨床検査技師教育と臨床検査技師の社会的地位向上を目指した新たな議論が行われます。どうぞ、参加し、盛り上げていただければと思います。

最後になりますが、卒業された皆様、学生諸君、それぞれが自分に合った道を模索し頑張っていると思いますが、いつの時代にも言えることです。やはり自分を信じ、自分と戦うことが改めて重要なことと思っています。どうか信州大学での良き思い出を大切に自分らしさを磨き、自らのフィールドを完成させて下さい。

〔担当科目 臨床免疫検査学 他〕



アンケートに 応えて...

- 1：主な担当教科
- 2：在任期間
- 3：近況
- 4：学校での印象深い思い出、記憶に残ること
- 5：最近、嬉しかったこと
- 6：会員の皆さんへ一言

丸山 雄造 先生

会報原稿依頼を頂戴し、この年齢になって将来像は若い現役の先生や学生諸君に委ねて、昔話の語り部のようなお返事を質問にに応じてお送りします。私は現在の信大旭町キャンパスが旧連隊のアメリカの占領が解かれて払い下げになった昭和21年からこの医学部の成長を見守ってきており、その間に中央検査部、技師制度、技師学校が次々に誕生してその最初からお世話してきた一人です。

1：今でこそ臨床検査技師ですが、開設時の講師依頼にどんな学校か、から説明し、新しい教育の説明の上講義の担当をお願いしたものでした。各々の教科に当初から素晴らしい講師の支援を戴けたこと本当に感謝しています。従って適当な講師の得られなかった科目については、一時講義をお預かりもして学校を発足させました。学年により様々で本来は病理学、臨床病理学、臨床検査総論ですが、初期の担当は医療機器学等穴埋め講座をお預かりしての発足でした。

2：昭和41年1月19日～平成8年 31年間 こんな在任期間の始まりは納得されないでしょうが、鷹匠町にあった附属病院が焼失し、昭和35年(1960年)現在地に再建され、その最初の中病棟に中央検査部が設けられ、昭和37年(1962年)から発足、昭和41年1月19日(1966年)衛生検査技師学校が認可されました。責任者として校舎、施設のみならずカリキュラム設定、各科講師の委嘱に始まり地域高校への連携、入学試験等の全てに奔走、上村教務主任の招聘、一年後は中央検査部での実習に当時の野本先生や塩原技師長のご支援を得ての技師学校の慌ただしい発足は忘れ得ません。在任期間はそこからにしました。その後現在校舎の設計・新築・移動(敷地2千坪は将来大学昇格を期して衛生検査技師学校時代信大評議会の確認を得てのものです)、学校の昇格、カリキュラムや教育体系の変貌に即しての成長をみてきました。

3：信大附属病院中央検査部病理検査室を勝山先生に引き継ぎ昭和48年(1983年)県がん検診センター検査部長に移り、平成7年(1993年)定年退職し、一時県内病院の病理検査や看護学校等の講師をお預かりしてい



ましたが、現在は無職で自宅に居ります。大学とは今もまだ検査部同門会長として検査部に時々お招き戴いています。今年の同門会報にも書きましたが、現在の新幹線のような状況を前に私はSLのような古参の感を抱いており、検査部時代の無理から腰を痛めて手術しましたが今足が痺れて歩きが悪く、気力と杖とタクシーで飛び歩いています。幸い腰から上は調子良く、地域の文化団体に元気で参加しています。

4：臨床検査技師教育カリキュラムを策定し、臨床検査技師法制定に寄与し、臨床検査技師学校へ転換、更に学歴にならない養成校の各種学校から授業料を納める正規の学校の3年制医療短大に昇格したこと。先々は医学部と肩を並べる4年制大学でと、歴史的に外科医がMr.からDr.へと転身したように技師もDr.の仲間入りして、医療の一専門領域を預かる責任ある職種をが夢でした。目の黒いうちに4年制

医学部保健学科に昇格し、卒業生から教授が生まれ活躍していることは最大の喜びです。今の人には昔話でしょうが、大学紛争最中理学部の物理学松崎先生がフト「この学校には本当の学びの姿があるのは嬉しい」の一言、周辺の各学部が紛争で卒業式ボイコットの中、技師学校だけが那須校長が免状とバラ1輪、そして一言を沿えての卒業式を無事終了出来た思い出は忘れられません。ただ翌年は技師学校の卒業式も流して仕舞いました。

5：それは何といても4年制の保健学科への昇格と卒業生からの教授就任(検査部からは更に2名の技師が他の大学教授に)、学校卒業生諸君の活躍にそここゝで接することです。

6：初期各種学校時代の入学試験と学生諸君の成績分析。各種学校時代は入試に拘束がなく、自由に試験様式は工夫ができた。1次2次に分け、1次では理科3科目必修として学科試験を行い、募集人員の2倍程度に絞り、全て学力ありと認定し、2次では葉書大の小論文と委員全員の目的別の面接を行い、夜を徹して合格適・不適を各人の印象で合否を決定、適・不適何れでもない中間は各委員が推薦しその責任から合格後は推薦の教官がその勉強、生活の責任を預かったものでした。そのように当時の学生は全員一人一人を皆で責任をもつが卒業就職まで皆して見守ってきました。合格者全てに面接し、多少の身体的故障も作業に適えば積極的に合格させたものでした。また入学後の成績は全て記録、追跡し、内申書のABCが学習意欲を反映していると、の成績から1次判定に内申書のABCの評価を添えたもので、入学後の成績追跡は内緒で行ってきたもので熱心な入学判定から熱心な学生を得られ、また教官の授業への愛情と熱意を養って参りました。当時の資料は全て破棄しましたが、ごめん。短大になり入試は文部省の通達に従って行われています。

吉田 安雄 先生

1：病理組織細胞学

2：1976年～1996年 21年間

3：週1回松本医師会看護学校へ病理学の話に行ってます。

余暇を見ては、風景を中心に写真撮影、また川釣りなどで余暇を過ごしています。

4：第28回日本臨床検査学会(S54. 4)が信州大学キャンパス、松本市内12会場で開催された大事業です。衛生技術学科の先生方、長野県の臨床検査技師会員、そして、当時の医療短大部の学生諸君の協力を得て成功したことです。責任者の一人として感無量でした。学会前日の夜、心筋梗塞で母を亡くしました。その一コマ一コマが目に焼き付いています。終生忘れることはないでしょう。

5：孫と(小5・保. 年長)夏休みに遊んだことでしょうか。乗馬・川釣り・昆虫採取。また、孫の家の空き地に畑をつくり、トマト・ナスの苗を植え、やがて熟したこれらの野菜を家族全員(おもいのほかたくさん採れました)で食べました。いつのまにか成長した孫たちが頼もしく見えました。ジジババ。

6：授業について言えば、その内容をできる限り理解されるようにと努力したつもりですが、しかし、満足できるような授業であったと確信ができません。当時の学生に言いたかった事ですが、特にありませんが、ひいて上げれば臨床検査以外にも興味をもつ事も今後の人生経験のうえで必要な事。



田口 八郎 先生

1：病理学(他に血液学の一部、臨床検査総論の一部)

2：S41. 1. ～H13. 3. 26年3ヶ月

3：思い返しますと、本年の3月で退官してから満6年が経過しました。退官後、何か肩の荷が下りたと云うか何かしらいつも感じていた重圧感からの開放を覚えました。その後自由な時間を持って余す間もなく多くの知己からの声掛けがあり、現在は医療のほんの一角を担わせていただいています。これが第1番目の仕事といえます。今の生活は、時間的には大学時代に比べ結構きついかもかもしれませんが、責任の度合いからするとかなり気が楽だといえるかもしれません。現在の仕事の第2番目は、自身の病気のコントロールと云えます。ご存知と思いますが平成3年に大きな病気に罹り、在職中の平成7年から血液透析の導入に至りました。血液透析導入に至る経過は、自分自身で十分納得し決断した道ですから別にどうこうありませんでしたが、その後の十年余、学生さんたちには十分な教育と医に対する私の心を十分伝えられず、それが一番の心残りでした。週3回(夜間)平均4時間の血液透析は一見大変そうですが、治療というよりは「明日への生きる力と活動のための透析」であり「仕事の一つ」と受け止めています。仕事の第3番目は、腎臓病患者団体の一員としての活動

です。はからずも障害者の一人になってから、透析患者の会（病院での組織、県組織、全国組織があります。全国の透析患者の約50%が組織化されています）に加入、医療の現状が年々厳しさを増す中、透析医療制度の維持のためにお手伝いさせてもらっています。自分自身が透析患者となって、今までの医療側の立場から患者側の立場に立って現在の医療制度を眺めることができ、他の障害者の問題も含めて社会保障制度全般にわたり、今までより敏感に、より深くいろいろ勉強させられています。この5月には、佐賀県で透析患者の全国大会があります。佐賀の病院で臨時透析を受けながら、大会への出席と長崎への小旅行でもと考えています。



4：昭和41年に信大附属衛生検査技師学校が設置された当初から、病理学の非常勤講師として関わって以来平成13年3月の停年まで、ほとんどの卒業生に接触してきたと言っても過言ではない私ですが、その年その年を断定できないまでも、各クラスそれぞれに脳裏の奥深くに刻み込まれた思い出があります。しかしあえて挙げてみますと、昭和41年の衛検のスタートから、47年4月の臨検へ、さらに49年6月の医短へと、衣替えした節目節目の時期が特に印象深く思い起こされます。またこれらの時期は、教育制度の変化のみならず校舎そのものも新增改築の時代でした。学生数も教育に最適な20人からスタートし、一人一人の名前はもちろん、性格も生活状況もすべて把握でき、これぞ教育のあるべき理想の姿とつも思っていました。医短になって一学年40人（私は出来れば多くても30人位に思いましたが）となり、数に反比例してなかなか名前と顔が一致できずに、それが大きな悩みでした。思い返してみますと節目の学生さんたちは、校舎も設備も何もかも不備なのに、私たち教官と一緒に、その整備充実のために共に汗を流してくれ、今もその時その時の顔と姿をアリアリと思い浮かべることができず。老境に至った現在、懐かしさがいっぱい思い出です。

5：この頃見聞きすることにはイカルことがいっぱいありますが、感動や喜びが少なくなっているのは年令のせいでしょうか。私が戦後の教育を通じて培ってきた民主主義に関する思いからすると、最近の日常の出来事から見聞きする民主主義はかなりかけ離れたことばかりであり、これではいけないと思いながらも、ドンドン自分の殻のなかでしか感動も喜びも覚えなくなっています。それらのなかで最近の唯一の楽しみは、テレビ電話で毎日遠くにいる孫たちと会話することです。このことは、最初の孫が生まれたとき、当時CMで宣伝されていた光ケーブルによるテレビ電話導入を思い立ち、NTTにデモ機も届かない時期に申し込みをして、県下でも初めてと云いながらも技術屋さんが苦勞して設置してくれ実現しました。今は3才と1才の孫が、ほとんど連日交信してきます。何もかも忘れて心が安らぐ一時となっています。しかし今後は、もう少し外向きにも喜びを得るよう心掛けなければと思っています。

6：医療の最前線に出てみますと、その指導者も中堅も若手も、いずれもかつての卒業生ばかりであり、完全に皆さんの時代であることが分かります。これからの医療界はもちろん一般社会の担い手は、間違いなく皆さんです。これからの医療はもちろん日本丸の行く末は、皆さんによって決められます。現在の社会保障問題をはじめ幾多の大問題を乗せた日本丸と繁栄する日本しか知らない現在の船長および幹部船員が、どこへ向かおうとしているのか大変に心配なところがあります。また最近の各種世論調査をみていると、幾多の大問題に対する回答結果に鳥肌がたってくる場合があります。本校の卒業生には、既に母あるいは父となった方、更にはオジイちゃん・オバアちゃんとなった方もいます。これから結婚し新たに家庭を築かれる方もいることでしょう。そういう皆さんに是非お願いしたいことがあります。それは私たちみんなの子供や孫たちが、葉書一枚で戦火のもとに引っ張りだされるような国にしてはならないということです。主義主張はいろいろあるでしょうが、この一点にしばって問題解決が計られれば、必ず道が開けると思っています。皆さんには、日本丸の将来について、医療のなかの諸問題と同等あるいはそれ以上に、敏感になってほしいというのが私の願いです。今後も私は、年令も病気も忘れ元気に（自分ではカラ元気と表現しています）、何かの役にたてる間は医療現場にいます。見かけたら声をかけてください。皆さんの健闘を祈ります。

.....



山田 喜紹 先生

1：昭和42年～平成6年 28年間

2：微生物学

3：現在75歳、エイズの予防教育、現在までに松本市内、近郊の小・中・高校を始め、さまざまな機会、いろいろな対象者に100回以上の講演を行なっています。

松本市民公開講座「エイズ・性感染症 正しい知識・予防を」（H18.8,10,11）、松本県ケ丘高校出前講座「エイズ・性感染症予防」（H17.11）、などなど。また市民タイムスなどでエイズの予防の啓蒙活動や、話題の感染症に関する解説を行なっています。

4：あまりに多く、書ききれません。素直な学生と接して、毎日が楽しかったです。

5：エイズについての市民公開講座が開かれました。毎月4回くらいの講演があります。今日は松本警察署で行ないました。

6：昔は「死ぬまで生きよう、堂々と」 今は「死ぬまで生きて、がんばろう」

野本 昭三 先生

1：臨床化学
(カミングホームデーの中に写真・寄稿があります。)

石田 章子 先生

1：先生方の実習のお手伝い、主に化学実習
2：昭和50年～53年 2年10ヶ月間
3：波田総合病院で病理検査を担当しています。長男27才、長女25才、次男20才。ママさんバレー、今はソフトバレーにあげられる毎日です。
4：上村先生の骨髓像の実習の授業で学生さんの質問に答えるのに四苦八苦したこと。
5：サッカーワールドカップで中田選手の最後の試合となった日本×ブラジル戦を実際にみれたこと。娘が昨年5月より松本勤務になり子ども三人とも同居するようになったこと。
6：自分の能力のなさにもっと勉強しなければと反省の毎日でした。私は2年間の衛生検査技師学校卒で、医師会臨床検査センターに2年間、その後短大に勤務したわけですが、学生さんと年も近く、仲よくしてもらい、新たに大学生活を味わうことができたような気がします。当時の学生さんたちに感謝です。



藤森 澄子 先生

1：細菌学
2：S49年～S51年 1.5年間
3：三人姉妹の長女美冬が今年の5月に結婚し、家族が5人から4人になりましたが相変わらず賑やかにおしゃべりしています。主人も60才を過ぎましたが元気で働いてくれており、三女も社会人2年目となりましたのでこれからは自分達の楽しみを少しずつ見つけて第2の人生をと考えているところです。毎月の国内旅行(温泉めぐり)と年一回の海外旅行を楽しみにしています。
4：お給料が手渡して、那須先生のを頼まれて先生に直接渡したりした事。細菌学の試験問題を作って腸内細菌の同定に関する問題が、「これはなかなかいい問題だね。」と上村先生に誉めて頂いた事。後は他の先生たちにとても良くして頂いて居心地が良すぎた事などです。30年以上前で、忘れてしまいました。
5：長女が結婚してくれた事。
6：当時の学生さんは良く勉強していたと思います。

岡野 章子 先生

1：血液学のお手伝いをしておりました。
2：1975年～1976年 1年間
3：1976年に結婚し、30年間主婦をしています。
4：臨床検査技師学校の最後の1年間だけ皆様と一緒にすごさせていただきました。ですから「先生」などと呼んで頂くのは本当におこがましい、「末席を汚す」モデルになりそうです。ちょうど医療技術短大へ移行する年で、衛検、臨検学校の歩みを記した記念誌編さんのお手伝いをしたことを思い出します。
5：52才にして(最近でもないかな?)自動車運転免許を取得したこと。自分の運動神経を考えて、ちと迷いましたが、やはり世界が広がりました。
6：自信を持って言えるのは年齢が少し上なことだけで、どんなにかたよりない存在だったろうとチンシャの気持ちでいっぱいです。皆様お元気でしょうか？



お悔やみ

お二人の先生のご冥福をお祈り申し上げます。

櫻井 武彦 先生 平成7年1月ご逝去(生化学担当)
松田 好道 先生 平成18年6月ご逝去(臨床検査総論担当)

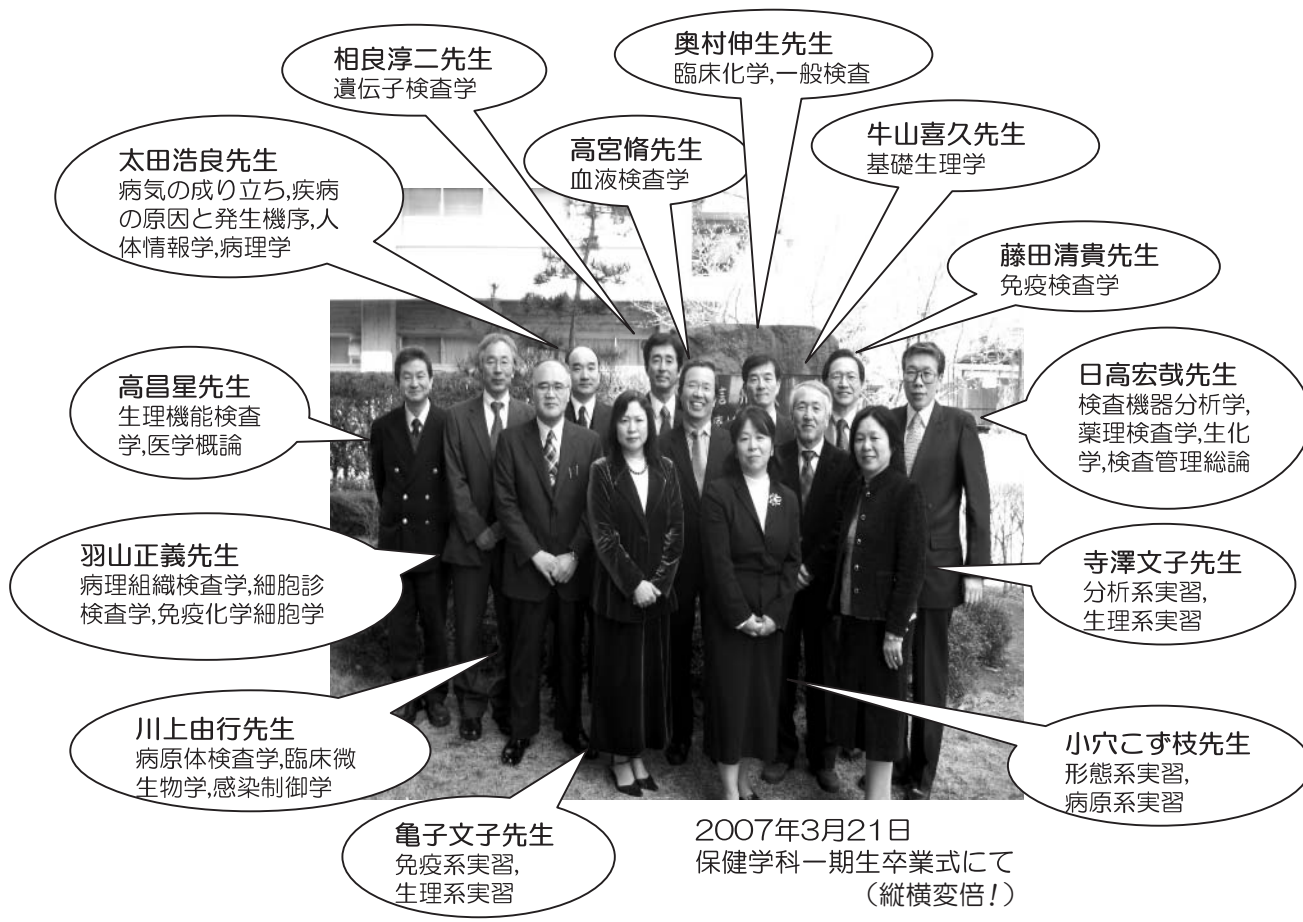
現在の先生方

奥村 伸生 先生

- 1：臨床化学、一般検査
- 2：平成5年～現在 15年目
- 3：2006年8、9月は学生の夏休みを利用して実験に励みましたが、2007年3月は環境教育の視察に米国サウスカロライナ州へ行ってきました。昨年度で4学年の講義・実習が一巡して、一区切りです。本年度からは修士課程の講義を開始しなければなりませんので、準備に入ったところです。
- 4：短期大学部時代に体育実技の集中実習として上高地・乗鞍にトレッキングを引率したことは楽しかったです。担任をしていた時に松本サリン事件に学生が巻き込まれたのでしばらくの間たいへん心配しました。
- 5：共同研究者であり非常勤講師をお願いしていた戸塚実元信大技師長が東京医科歯科大学大学院教授に就任されたこと。
- 6：臨床検査技師として働いている皆様は、検査室などがいろいろな面で大変であると思いますが、それぞれの立場で努力して解決して欲しいと思います。保健学科などの教員になるチャンスも徐々に大きくなると思います。そういう志のある若い方々はぜひがんばって下さい。

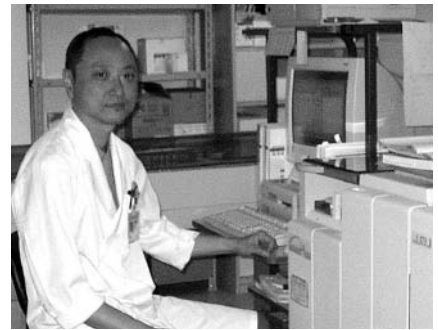
相良 淳二 先生

- 1：遺伝子検査学
- 2：平成17年～現在
- 3：これまで基礎研究を主としてやってきました。現在、教育のたいへんさを強く感じています。
- 4：1年生の担任になったこと。（これからがたいへんですが）
- 5：発見した2つのタンパク質（遺伝子）が大きく発展しつつあること。
- 6：私は遺伝子操作とモノクローナル抗体技術を両輪として基礎研究をやってきました。検査専攻に属したことを契機に検査に役立つモノクローナル抗体を作りたいと考えています。仮称、信州モノクローナル抗体開発研究会（SMADARAすまだら；Shinshu Monoclonal Antibody Development and Research Association）、現在会員1名（私）を立ち上げました。モノクローナル抗体を作りたい方、何か検査に役立つターゲットをお持ちの方があれば会員になりませんか。会費はただです。



腫瘍マーカー

信州大学医学部附属病院臨床検査部
永田 誠 (短6)



腫瘍マーカーとして最も古くから利用されているものは、多発性骨髄腫で現れるベンスジョーンズ蛋白でしょうか。また、腫瘍マーカー測定の意義が (1) 癌の治療効果と経過の観察、再発の発見 (2) 癌の診断の補助 (3) ハイリスクグループの追跡 (4) 癌の種類の鑑別 (5) 進行度や予後の推定などであることからすると、広い意味では各種ホルモン検査やCRP、一般生化学項目なども腫瘍マーカーとして使われる場合もあります。

私たちが一般に考える、“いわゆる”腫瘍マーカーというものが登場したのは1963年にTatarinov, Aberevが肝癌移植マウスの血中にαフェトプロテイン (AFP) が出現するのを発見し、AFPが原発性肝癌のマーカーとして有用であることを明らかにしたことによります。その2年後にはGoldらによりCEAが発見されました。以後40年以上が経過し、さまざまな癌に対して数十種類の腫瘍マーカーが臨床に应用されていますが、この2項目は現在も最もよく利用されるマーカーとなっています。

腫瘍マーカーは検査される人への負担が少なく、大量処理が可能なおことから癌スクリーニングへの期待がりましたが、腫瘍マーカーは癌細胞の数がある程度まで増えないと異常値を示さないため、最も有効な癌対策である早期発見には役立たないと言われていています。確かに一般の癌検診に有効なマーカーはありませんが、対象を特定の癌のハイリスクの人に絞れば、十分な感度を持つマーカーがいくつかあります。中高年の男性の前立腺癌に対するPSAはその代表的なマーカーで、検診という点で見れば最も成功している腫瘍マーカーといえるでしょう。

特異性の面での進歩もあります。腫瘍マーカーは“癌特異抗原”ではないため、癌以外の原因でもしばしば陽性を示すことはよく知られており、診断の際に判断が難しいことがあります。そこで、その特異性を向上させるためにルーチン化されているものにAFPのレクチン分画という検査があります。AFPは肝細胞癌の腫瘍マーカーですが、AFPの糖鎖構造の癌性変化をレンズマメレクチンとの親和性の差を利用して分画すると、肝細胞癌では肝臓の良性疾患に比較してL3分画の比率が高いことがわかっており、単にAFPの値だけを見るより診断的価値が向上します。

現在はこのように、かつて腫瘍マーカーの弱点とされた感度や特異性についても向上しており、また更なる研究もされていますが、これまでの“いわゆる”腫瘍マーカーは癌細胞が産生する物質 (一部は癌に反応し

て生体が産生する物質) であり、癌特異抗原というものが見つからない以上、やはりそこには限界があり、今後もこれまでのような使い方が主になると思われます。これに対して癌細胞に由来する遺伝子や、抗体をマーカーとする研究が実用化されつつあり、“新しい”腫瘍マーカーとして期待されています。

【主な略語】

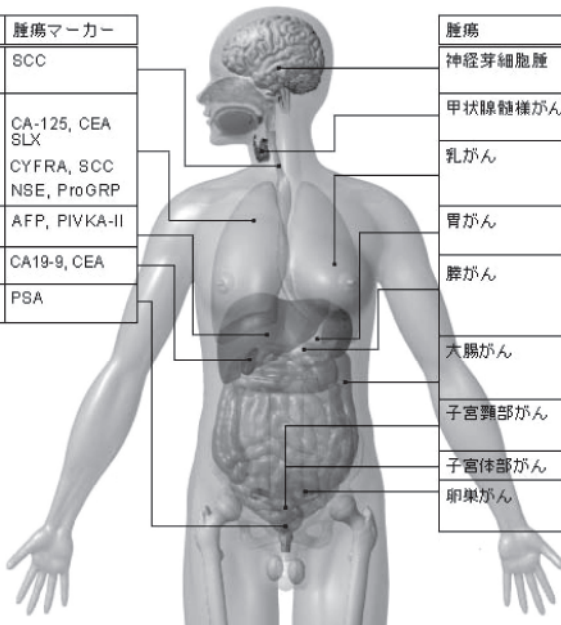
CRP : C反応性タンパク
SCC : 扁平上皮癌関連抗原
CEA : 癌胎児性抗原
AFP : αフェトプロテイン
PSA : 前立腺特異抗原
NSE : 神経特異エノラーゼ
STN : シアリルTn抗原
SLX : シアリルSSEA-1抗原
ProGRP :

ガストリソ放出ペプチド前駆体

bHCG :

ヒト絨毛性ゴナドトロピンβサブユニット

腫瘍	腫瘍マーカー
食道がん	SCC
肺がん	CA-125, CEA, SLX
扁平上皮がん	CYFRA, SCC
小細胞がん	NSE, ProGRP
肝細胞がん	AFP, PIVKA-II
胆道がん	CA19-9, CEA
前立腺がん	PSA



腫瘍	腫瘍マーカー
神経芽細胞腫	NSE
甲状腺髄様がん	NSE
乳がん	CA-125, CA15-3, CEA, NCC-ST-439
胃がん	CEA, STN
膵がん	CA-125, CA19-9, CEA, Elastase I, NCC-ST-439, SLX, STN
大腸がん	CEA, NCC-ST-439, STN
子宮頸部がん	βHCG, SCC, STN
子宮体部がん	βHCG, SCC
卵巣がん	βHCG, CA125, STN, SLX

腫瘍マーカーの種類

© 国立がんセンターがん対策情報センター



お帰りなさい 松本へ カミングホームデー1号 短11回生

「私たち卒業して20年だって」
「そんなに経つのか?」
「同級会のために補助金くれるって」
こんな会話をしたのが去年の1月でした。
10月28日松本市の民芸旅館深志荘にて
短11のカミングホームデーとして同級会
を開きました。20名の参加があり、興奮
ぎみな楽しいひと時を過ごしました。うち
10名が宿泊し翌日はあがたの森公園や信
州大学へ行きました。

音信不通だった時間を飛び越え、一瞬に
して同級生に戻った一夜でした。
同級会が終わってからも胸キュンはしばら
く続きました。

学生時代は現在の私たちにとって中間地
点になります。

どんなだったかなあ。まっすぐで一生懸命
で、ぶつかって傷ついて、若いエネルギーに
溢れていました。そして親に守られていまし
た。

今は思い通りにいかないこともたくさん経
験し、それぞれがその人だけの過ごした時間
があることを大切にできる年齢になりました。
歳を重ねることは、素晴らしいことです!
松本での同級会は、単なる飲み会とは違いこ
れまでの人生を振り返るきっかけになりまし
た。しばし懐かしさに身を置き、帰りの電車
で、車で、それぞれが明日へのエネルギーに
したと、その後のメールや年賀状からも感じ
ました。

同級生を代表して、カミングホームデーを
ご提案いただいた臨嶺会にお礼申し上げます。
ありがとうございました。



▲ 20年振りの野本先生の講義
「血清亜鉛の研究について」

◀ 乾杯！

「松本での生活は、何より、いつより、人生最大の宝物。」

皆に会えて あの懐かしい景色を見て

だから楽しかったんだって納得しました。」メールより

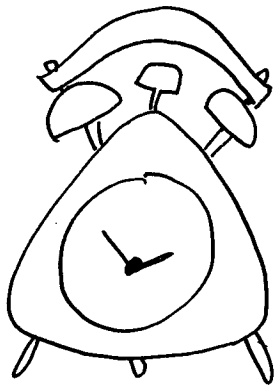


▶ 携帯にパチリ！

▶ 苦しい楽しい学生時代を過ごした校舎。懐かしさがこみあげてくる。
▲ 一年生、あがたの森でクレープを焼いた。「私たちの場所このあたりじゃない？」



私の近況から



みほちゃん

神奈川県に住んで早や9年。とうとうこちらに家を買って「神奈川県人」になりました。一番上の子は中学3年の受験生。あと中1、5才と3人の子供達に振りまわされる毎日です。年の離れた末子は特に可愛いく母親...というよりおばあちゃん感覚(!?)です。幼稚園のママ達は若く、そこからエネルギーを頂いている。今年も受験生をかわかっています...。こめんさん、欠席します。幹事さん、御苦勞様です。楽しい会にして下さい。

みきちちゃん

もう10年以上、医療の現場を離れています。この先、また臨床検査技師として働く時が来るとは思えませんが、何かしら普段の生活で役に立っている事もあるかなあと思えます。今も現役で検査技師とされている方はすごいなあーと羨ましい気もしますが、私は私なりに楽しくやっています。みんなに会えるのを楽しみにしています!

あやちゃん

検査技師をやめ、数年間育児に専念していましたが、今は医療事務のパートをしています。検査技師の仕事をしたいなと思うけれど再就職は難しいですね。みんなはどうですか？

県議会報告では、技師時代の経験を生かしています。



備前 光正

短大OBのみなさんご無沙汰しております。短大11回の備前光正です。昨年暮れ、20年ぶりに野本先生にもご参加いただき同級会がありました。短大生活をともにしたみなさんと本当に久しぶりにひと時を過ごすことができ、

先生をはじめほとんど学生時代と変わっていないのにはびっくりでした。

現在、私は12年間の病院勤務の末、塩尻市議会議員に推され、また2003年には「あの理不尽な知事不信任を許さない」とそれまでのゼネコン奉仕の県政から医療・福祉・教育重点に変えようと県議選に立候補し、当選させていただきました。現在医療・福祉を専門的に担当する、社会衛生委員会を担当させていただいております。

前知事の田中康夫氏は非常にユニークなお方で、私たちが懇談に行っても常にパソコンとにらめっこで、かなりシャイなお方なのか?と思いきや、でも話を聞いて理解されればすぐに取り掛かるなど、県民の立場からのスピーディな対応は県民に支持された点のひとつではないかと思えます。

そんな中、私は建設的提案を行うことを常

かおちゃん

ごぶさたしています。今回都合で出席できずして残念です。
現在私は、主人と小6小4の娘と4人で平凡に暮らしています。
臨床検査とはすっかり無縁になってしまっていて、諸々の
雑務に追われる毎日です。
帰省のたびに、松本の街並、信大病院の姿貌ぶりに驚き、
しみじみと時の流れを感じます。
みなさんもうぞお元気ですか！

さとーくん

4月に男の子が生まれました。
最近では笑うようになりました。その笑顔
心が癒えます。10月からは育児
休暇を取るので、どうなるのか今から
不安です。

野本流究極の黒豆レシピ

編集担当の昌子女史から「黒豆の煮方野本流レシピ」の寄稿依頼(但し、スペースは400字以内)があった。早速、NHKなど手元の料理本で黒豆のレシピの字数を調べたが400字以内は皆無。ただ、一度はclinical scientistを目指して勉強した諸兄妹が対象であるとすれば、黒豆の煮方に関する基礎情報さえ与えれば、後はなんとでもするに違いないと思い返して、以下にそれを提示することにした。

黒豆は煮る前にふやかす必要がある。豆に木灰の濾液少々と鉄釘2~3本と熱湯をたっぷり掛けて一晩ふやかしてから、そのまま数時間、豆が親指と小指の間で軽くつぶれるまで煮て、40℃位まで冷まし、温水(40℃位)で良く濯ぎ、箆にあげ、40℃位の糖蜜(水1に砂糖1.15(重量)加えて加熱して作る)に投じて室温で24時間かけて糖蜜を豆に浸透(病理の自動包埋装置の要領で)させ、これをジャム用の瓶に分配してゆるく蓋をした上で蒸し器に並べ、緩やかな加熱で80分くらい蒸したら火を止めずに素早く瓶を取り出して蓋を密閉(真空になる)し、瓶を逆さにして暫く放置後上向きにする。室温で7年は保存可能。豆と砂糖の重量比を7:10以上にまで上げ得てなお皺無しふっくらを極意とする。

質問はkhf10632@nifty.comまで。07-1-21 昭三

に行い、医療現場での経験を生かしてきました。全国的にも抗体陽性率が高い長野県のH1V問題を取り上げ、迅速検査法の全保健所、拠点病院での実施など県の本格的な取り組みが始まっています。(山田先生には大変お世話になりました)また県内の医師不足問題でも、勝山信大病院長や大橋医学部長にもお話を伺い、県行政に提案するなど、学生時代の経験(私の成績は悪かったです)を生かさせていただいております。この場をお借りして感謝させていただきたいと思います。

私は県政報告は一方向的にしゃべるのではなく、パワーポイントを使って視覚的にも理解していただくようにしています。一昨年と同窓会総会の時にも講演させていただきましたが、実はこれは中検での卒論のまとめや技師時代、いろんな試薬など検査現場での検討結果をまとめて発表してきた経験がもととなっ

ています。かつてのスライド作成は煩雑でしたが、これが今や容易にパワーポイントでのプレゼンができ、県議会報告をパワーポイントで行う最初の県議となっているのもこうした技師時代の経験があったからです。プレゼンなんて今や当たり前ですが、議員の世界ではまだまだこれからです。

民主主義を保障するにはいろいろな手法をとってでも不足することがあります。そうした中、マスコミだけでは報道されないような情報を正確にきちんと伝えていくことが私たちには特に求められています。多様化する情報社会の中であって、きちんとした情報の発信を県民のためにおこなっていくこと。これが県政を県民本位に変えることにつながる確かな一歩だと思います。検査の現場からは遠ざかっていますが、これからもがんばっていきたいと思います。

事務局からのお知らせ

ホームページ開設

前号で平成18年4月開設予定とお知らせしましたが、準備が遅れ平成19年4月より、保健学科ホームページの中の保健学科同窓会からご覧いただけます。順次内容を更新し、お知らせ、求人求職などの情報も掲載しますので、ぜひご覧ください。

保健学科ホームページ <http://alps2.shinshu-u.ac.jp/>

保健学科同窓会ホームページ <http://alps2.shinshu-u.ac.jp/subject/reunion.html>

会費未納の方へ

今後、会員の皆様から会費を頂くことはありませんが、平成19年3月末時点で会費未納の会員には未納金額のお知らせを同封してあります。できるだけ早く納入してください。なお、振込用紙の通信欄に衛・臨・短何回生、会員番号を必ず記載してください。

振込先 口座番号「00520-0-20187（郵便局）」 加入者名「臨嶺会」

カミングホームデー

平成18年より新規事業のカミングホームデーがスタートしました。平成19年の卒後20年は短大12回生（昭和63年3月卒）、卒後40年は衛1回生（昭和43年3月卒）が該当します。臨嶺会として補助、協力をいたしますので、今年または来年同級会を開催し旧交を温めてください。

本学に大学院修士課程開設

平成19年4月より信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（修士課程）が開設されます。修了すると、修士（保健学）または修士（看護学）の学位が取得できます。学生募集案内等は保健学科ホームページをご覧ください。社会人も出願できます（医療短大卒業でも出願可能な場合があります）ので、ご質問、詳細につきましては保健学科検査技術科学専攻教員または事務局までご連絡ください。

事務局への連絡方法

改姓・住所・勤務先等の変更届け等の事務局への連絡はメール、ハガキ、封書のいずれかの方法によりお願いします。また、市町村合併による住所変更につきましても必ずご連絡をくださいますようお願いいたします。

求人・求職情報

事務局に求人、求職情報をお寄せください。

☆ 勤務施設で臨床検査技師を募集している

☆ 臨床検査技師として復職・転職したい等のご希望をお持ちの方などご一報をお願いします。

卒業後の証明書申し込み方法

卒業証明書、成績証明書等の申込みは、郵送および窓口のみによる受付となります。メール、FAX、電話での申込は受付いたしません。詳細は信州大学ホームページ「お問い合わせ」の「各種お問い合わせ先」より <http://www.md.shinshu-u.ac.jp/SUMIS2/s-syoumeisyo.html> をご覧ください。

【郵送申込の場合】封筒の表に「証明書請求」と朱書きし、以下のものを同封してください。

(1) 身分証明書の写し：運転免許証、パスポート、健康保険証、年金手帳などの写し。卒業後に姓名に変更があった場合には戸籍抄本（原本）の提出が必要となります。

(2) 証明書発行願：証明書発行願様式をダウンロードしてご利用ください。または、以下の項目を記入した用紙を提出してください。1. 氏名・ふりがな 2. 生年月日 3. 学籍番号 4. 学部・学科・専攻等 5. 卒業年月 6. 現住所 7. 連絡先電話番号（自宅及び日中連絡のとれる携帯電話等） 8. 証明書の種類及び枚数 9. 提出先・使用目的

(3) 返信用封筒（長形3号）：宛名を明記の上、切手を貼付してください。必要証明書の枚数・組み合わせにより郵送料が増しますので、見合う料金を貼付してください。不足が生じた場合、後日請求させていただきます。

《家族・代理人による申込の場合は、上記のほか以下の2点も併せて送付願います。》

(4) 委任状：特に所定の書式は指定しませんが、本人の意思が確認でき、日付・本人署名・捺印が必要となります。

(5) 代理人の身分証明書の写し：運転免許証、パスポート、健康保険証、年金手帳などの写し。

【窓口申込の場合】平日8時30分～17時00分 ただし祝祭日及び年末年始（12月29日～1月3日）は除く。

◎持参するもの

(1) 身分証明書の写し：運転免許証、パスポート、健康保険証、年金手帳などの写し。卒業後に姓名に変更があった場合には戸籍抄本（原本）の提出が必要となります。

《家族・代理人による申込の場合は、上記のほか以下の2点も併せて持参願います。》

(2) 委任状特に所定の書式は指定しませんが、本人の意思が確認でき、日付・本人署名・捺印が必要となります。

(3) 代理人の身分証明書の写し：運転免許証、パスポート、健康保険証、年金手帳などの写し。

【申し込み・問い合わせ先】 〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学医学部学務第2係

Tel. 0263-37-2357（ダイヤルイン）

卒業生の進路

() 内人数



短29回生 卒業生 36名 (H17年3月卒業)

就職：25名 信州大学医学部附属病院臨床検査部、キッセイ薬品工業(株)、松本保健所、諏訪中央病院、諏訪マタニティクリニック、(株)イナリサーチ、ツチヤ・エンタプライズ、(株)ミロクメディカルラボラトリー、JA長野厚生連健康管理センター、(財)名古屋公衆医学研究所、名古屋記念病院、岐阜大学医学部泌尿器科研究室、大垣市民病院、近畿大学医学部附属病院、大井町メディカルクリニック、医療法人社団ひいらぎ会国領駅前眼科、富山大学医学部附属病院、(財)宮城県予防医学協会、医療法人社団三思会東邦病院、福山臨床検査センター

医学部保健学科編入学：11名

信州大学(5)、名古屋大学(2)、群馬大学(2)、金沢大学、山口大学

短30回生 卒業生 5名 (H18年3月卒業)

就職：5名 信州大学医学部(2)、福井総合病院、保健科学研究所

保健学科1回生 卒業生39名 (H19年3月卒業)

就職：32名 信州大学医学部附属病院臨床検査部、名古屋大学医学部附属病院、金沢医科大学附属病院、東京女子医科大学病院(2)、宮崎大学医学部附属病院、JA長野厚生連佐久総合病院(2)、JA長野厚生連篠ノ井総合病院、伊那中央病院、松本協立病院、諏訪中央病院、諏訪マタニティクリニック、わかばレディス&マタニティクリニック、木沢記念病院、岐阜市民病院、伊賀市民病院、JA三重厚生連、聖隷福祉事業団(3)、刈谷豊田総合病院、北野病院、IVF大阪クリニック、福岡済生会病院、長野県職(3)、神奈川県職、キッセイ薬品工業(株)、タカイ医科工業

大学院進学：6名

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻(3)、信州大学大学院医学研究科医科学専攻(2)、筑波大学大学院

松本便り



例年になく暖冬の年となりました。皆様には風邪をひくこともなく元気でお過ごしのことと思います。

ここ松本では、今年の3月、信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻の一期生が卒業しました。私達の念願であった学士の誕生です。多様化した医療現場において、他のコメディカルの人達と協力しながら質の高い医療活動を実践していただけるものと確信致します。でもその前に、国家試験に合格することが絶対条件ですね。

信州大学病院の大改築も、いよいよ終盤を迎えようとしています。2006年10月22日に撮影した解体作業中の写真を掲載しました。あの懐かしい中央検査部化学検査室の窓が左側に写っています。今では、かつての中央検査部・中央放射線部・中病棟の建物は跡形もなく、平地になっています。残るは思い出だけでしょうか。この跡地は、平成21年に信州大学病院の外來棟に変身します。今後、旭町キャンパスは大きな変貌を遂げることでしょう。完成の折には、ぜひ見学にお越し下さい。



信州大学医学部附属病院臨床検査部 沖村幸枝



編集後記



私事です、合唱・アンサンブルにはまっています。サイトウ・キネン・フェスティバル（SKF）1000人合唱での「第九」をきっかけに「カルメン」と続き、今ではSK松本合唱団をはじめ他2団体に所属し、毎年、松本城や音文等での演奏会に出演しています。今年は松本市制100周年で様々な催し物がありますが、合唱関係でも「まつもと市民オペラ合唱団」が結成され、私も参加しています。本年1月には、まつもと市民芸術館にてニューイヤークンサートが開かれ、11月にはJ.シュトラウスⅡ：オペレッタ「こうもり」全幕公演が開催されます。是非、お出かけください。

ところで、今までの会報との違いにお気づきだと思いますが、今回の会報は事務局はじめ編集委員会がこれまでの会報の内容について話し合い、特集を組んだり取材に出かけるなど、今まで以上に情熱を注いで作成してきました。いかがでしょうか？一人でも多くの会員の皆様に親しんで頂けるよう努力していきたいと思ひます。今後とも宜しくお願いいたします。

(2007.3.14文責 石川伸介)



臨嶺会会報

第28号

臨嶺会会長
事務局

奥村伸生
寺澤文子
小穴こず枝

編集委員会

亀子文子
石川伸介
久保田聖子

編集協力

沖村幸枝
赤羽昌子

印刷

株式会社プラルト

臨嶺会事務局

〒390-8621 松本市旭3-1-1

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻

Tel. 0263-37-2387 (ダイヤルイン)

Fax. 0263-37-2370 (保健学科事務局)

e-mail fterasa@shinshu-u.ac.jp (寺澤文子)